

かずやしんさん

13号.



2025. 10

尾野一矢さんについて

一矢さんは1973年3月26日座間市生まれで、51歳です。彼には重度の知的障害と自閉症があります。愛情あふれる両親と姉と一緒に暮らしていましたが、共働きの両親が世話を続けるのが難しくなり、中学1年生のときに障害児向けの施設に入所しました。そして成人してからは23歳のときに相模原市緑区の県立障害者施設「津久井やまゆり園」に入所しましたが、2016年7月26日、障害者19人が刺殺、職員2人を含む計26人が重軽傷を負わされる「相模原障害者施設殺傷事件」が起きました。犯人はこの施設の元職員で「障害者はいなくなればいい」と主張するなど、障害のある人を差別・排除する考えをあらわにしました。一矢さんも首や腹などに重傷を負いながらも何とか一命



は取り留め、徐々に回復に向かいました。両親は重度の障害がある人が暮らす場所は施設以外ではなく、このまま施設での暮らしがずっと続くものと思っていました。しかし、重度の知的障害のある人が支援を受けながら地域のアパートで一人暮らしをする取り組みがある事を、映画「道草」(宍戸大裕監督)やNPO法人「自立生活企画」(東京都西東京市)との出会いにより知りました。集団生活を送る施設ではどうしても一矢さんのペースで生活することは難しく、もっと自由な生活をさせてあげたいという思いが両親の背中を押しました。そこで2018年8月から地域生活を見据えて、自立生活企画の介護者が週1回施設に出向き、家族と一緒に昼食を共にしながら一矢さんとの信頼関係を築いて行きました。そして2年後の2020年8月、故郷の座間市でようやくアパート生活を始めることができました。

施設での生活が計35年ほどに及ぶ一矢さんにとっては戸惑うことばかりの日々かもしれません。それは、私たち介護者も同じです。ともに悩み、そして楽しみながら手探りの日々を送っています。そんな一矢さんですが、いたって普通のおじさんです(笑)。ポテトサラダ、ハンバーグ、納豆、たくあん、板チョコ、缶コーヒーや「一本橋」という手遊びが大好きです。もし一矢さんが「一本橋」と言って手を差し出してきたら、それは「友だちになりたい」というあなたへの親愛の証です。ぜひ相手になってください(介護者が遊び方をお伝えします)。一矢さんは平日の日中は作業所で活動していますが、わが家である「かずやんち」(一矢さんはこう表現します)でのゆったりとした時間が何よりも大好きです。一矢さんはその時の気分で、部屋で大声を出してしまうこともあります。この生活を大変気に入っています。私たちはそんな一矢さんをこれからも支え、共に生き、一矢さんの友だちの輪を広げたいと思っています。何かとご迷惑をお掛けしてしまうかもしれませんが、どうか温かく見守っていただければありがたいです。

天畠大輔議員の政策勉強会に登壇させていただきました。



2025. 8. 24, 天畠大輔参議院議員による
政策勉強会2025に登壇させて頂きました。

今回は重度訪問介護の歴史も含めたコミュニケーション支援の重要性という事で、一矢さんと共に介護者（大坪）がお話しさせて頂きました。 歴史という事で1970年代、日本における「脱施設」の先駆けとなった府中療育医療センター闘争から続く

あなたのお知恵を拝借

全2回シリーズ

議員活動の大事は
お知恵の活用！

参議院議員 天畠大輔

政策勉強会2025

天畠大輔事務所では、障がい・障害当事者が地域で暮らし、社会参加するための政策の策定に向けた政策勉強会を開催いたします。当事者、支援者、研究者等の皆様を招いた対話を通じて、地域の課題を共有し、政策形成のための知恵をいただく貴重な機会に、どうぞご参加ください！

参加費 無料

2025年8月24日(日) オンライン開催
13:00~15:00

第1回「知的障がい者の地域生活」
登壇者講演/トークセッション/ご参加の皆様との意見交換

鈴木 良（すずき・りょう）さん

尾野一矢（おの・かずや）さん

大坪幸樹（おおつぼ・やすき）さん

お申し込み・お問合せ
参議院議員 天畠大輔事務所
03-6550-0316
tenohatake.office@gmail.com

9月21日(日) 第2回

お申し込み・お問合せ
参議院議員 天畠大輔事務所
03-6550-0316
tenohatake.office@gmail.com



介護保障要求運動のリーダーで以前大坪が専従介護者(=パーソナルアシスタント)をさせて頂いた新田勲さんの足文字によるコミュニケーションや天畠さんの「あかさたな話法」

そして一矢さんとの関係性にも通底している
重度訪問介護制度の要となる「見守り」の重要性をお話しさせて頂きました。



一矢さんも「ちゃんとやらないからダメー!」と渾身の力を込めて叫び訴え、登壇中、自分のポジションをしっかりと意識して、その務めを果たしてくれていました。



鈴木良先生(同志社大学)の知的障
害者の地域移行についての講義もとて
もわかりやすく、また、木村英子議員も
参加しての座談会もあり、一矢さんも集
まってくださった方々に

「一本橋コチョコチョ」の大盤振る舞い!



とても和やかで楽しく



充実した会になりました。



当日の様子は HP「よってけ一矢んち」でも動画がみられます。

「バリバラ」の玉木幸則さんが来てくれました！



NHK E テレの番組「バリバラ」(2025.3月に惜しくも終了)のご意見番としてご活躍されてきた玉木幸則さんがスタッフの皆さんと共に取材を兼ねて訪ねて来てくれました。



プレゼントに頂いた大好きなチョコレートを食べる一矢さんと、それを見守る玉木さん。



お弁当を買って

近くの公園で一緒に昼食

昼食後は、ゆったりお散歩、言葉は少ないけど「やっと会いに来られた」という玉木さんとの濃密な時間…



豊富な経験と知識、当事者ならではの視線による奥深い取材。これからも素敵な番組作りを応援してます。とても豊かな時間になりました。玉木さんスタッフの皆さんありがとうございました！

佐野夢果さんとランチ会！



夏の津久井やまゆり園追悼、献花の際初めてお会いした、生まれつきの難病(脊髄性筋萎縮症)で車椅子ユーザーの佐野夢果さんにお招きいただき、この春入学されたばかりの慶応義塾大学藤沢キャンパスにてランチ会をしました。

高校生の頃から活発な社会活動もされていて内閣府公募の作文が最優秀賞を受賞、首相表彰を受けた事もあるそうで、その快活な姿にこっちも元気と勇気を頂きました。



翌日の9.23が19歳の誕生日と言う事で、猿渡達明さんも駆けつけてくれてささやかながらお祝いもさせて頂きました。





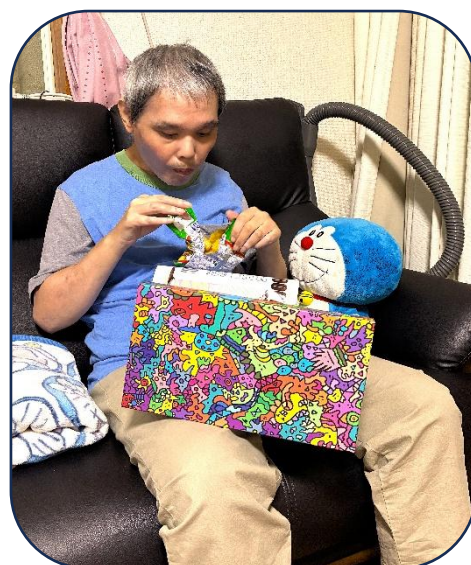
夢果さんが信頼し、親しくしていらっしゃる、地域福祉に詳しい内山映子先生もいらしてくださり、ゆっくりと校内を案内してくれました。

車いすユーザー横山博則店長が運営する静岡県掛川市の「駄菓子屋横さんち」2019年にオープンし、13名の障がい者が働くとてもユニークな駄菓子屋さん。地元だった夢果さんも高校生の頃はボランティアスタッフをされていたそうです。



夢果さんデザインの素敵な箱一杯に入った「横さんち」の駄菓子の詰め合わせをプレゼントしてくれました。

一矢さんも夢いっぱいのプレゼントが
とても嬉しかったようで、自分でお気に
入りのお菓子を、あれこれ選んでは、頬
張っていました。



「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」



慶応義塾大学創立者、福沢諭
吉の言葉は、現在のノーマラ
イゼーションにも通じている
と思います。

夢果さんもこの春始まった
たばかりの慣れない土地での

地域福祉に詳しい内山映子先生と福沢諭吉像前にて
重度訪問介護を使っの一人暮らし。

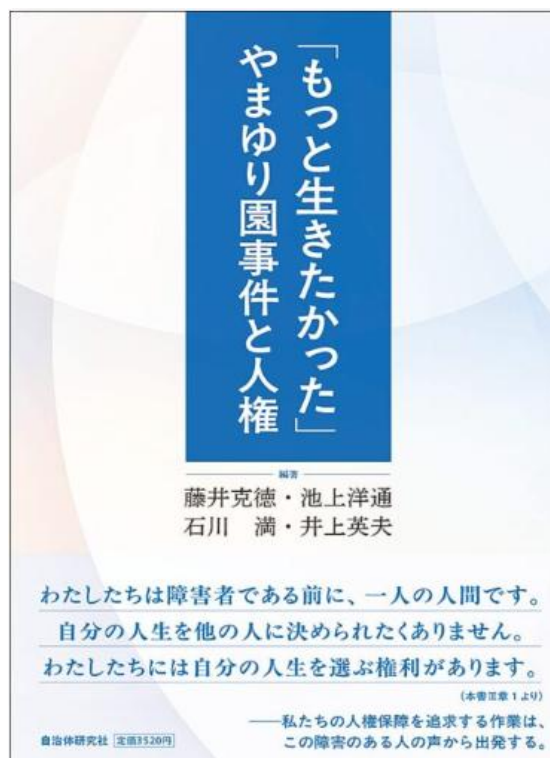
「合理的配慮」が義務化された中で、解決すべき課題は沢山あるかと思
いますが、一緒に楽しく地域生活の輪を広げて行きましょう！

一矢さんも皆で応援してます！

「もっと生きたかった」やまゆり園事件と人権

事件当時の混乱や一矢さんの地域移行について

尾野剛志(お父さん)と大坪(介護者)も書かせて頂いてます。



事件から9年。優生保護法最高裁大法廷判決を踏まえて、人権保障の視点から事件を捉え直す。

「わたしたちは障害者である前に、一人の人間です。自分の人生を他の人に決められたくありません。わたしたちには自分の人生を選ぶ権利があります。」(本書 3 章 1 より)——私たちの人権保障を追求する作業は、この障害のある人の声から出発する。

事件から9年。優生保護法最高裁大法廷判決を踏まえて、人権保障の視点から事件を捉え直す。27名の筆者が、さまざまな立場から事件の根底にある日本社会のマグマのような優生思想、対抗すべき人権意識の弱さ、そして社会保障・社会福祉等政策・制度の貧困を指摘する。とくに、国の人権保障に対する恐るべき無責任体制、自助、共助、公助論、社会保障・社会福祉の民営化・営利化政策があることを厳しく問う。

書籍名	「もっと生きたかった」やまゆり園事件と人権
著者名等	藤井 克徳, 池上 洋通, 石川 満, 井上 英夫 (編著)
価格	¥3,520 (税込)
発行年月日:	2025年9月25日

「私たちのことを私たち抜きに決めないで(Nothing About us without us)」を合言葉に世界中の障害のある人たちが参加し作成された「障害者権利条約」。批准国である日本に対し国連の権利委員会による初めての審査がスイスのジュネーブで2022年8月22日から2日間行われました。権利委員会は「**(やまゆり園)事件を経て、このような施設で暮らす人達が沢山いる事について考え直した事はあるんでしょうか**」と指摘。「障害のない人と平等に施設から地域社会で自立した生活へ移行することを目指し期限付きの数値目標、人材、技術、資金を伴う法的枠組みや国家戦略、その実施のための都道府県の義務付けを開始すること」を求めました。にもかかわらず国による地域移行の現状は年々減速しており、いまもおおよそ約13万人が施設で暮らしています。次回の審査は2028年、早急にヘルパーの育成など地域の体制づくりを進め「脱施設化」に向けた動きを実行していく事が求められています。



発行 かずやさんとその仲間たち

〒252-0005

神奈川県座間市さがみ野3丁目2-19-101

メール kazuya.ono811@gmail.com

Facebook “尾野一矢日記”

<https://www.facebook.com/onokazuyanikki>

ホームページ

“よってけ一矢んち” <http://ono-kazuya.com/>

発行日 2025年10月



“尾野一矢日記”



“よってけ一矢んち”